

シンポジウム「全館避難の再考 ～超高層・高層建築物からの避難戦略～」開催案内

日本においても 300 m を超える超高層ビルが増えつつあり、200 m を超える超高層ビルも変わらず増加傾向にある。これまでのところ日本国内では超高層ビルでの大規模な延焼火災は起きていないが、世界的に見れば複数階あるいは建物全体に延焼した超高層ビル火災が 1970 年代以降たびたび起きている。近年では外装材料の燃焼によって大規模な火災に発展した例も多数見られ、中にはグレンフェル・タワー火災(2017 年)のように多数の人的被害を出したものもある。

日本国内の超高層建築物にあっては、耐火性能や消防設備の信頼性、さらに管理や運営の面で規則を遵守しようとする意識の向上などによって火災発生頻度の低減や火災発生時の被害拡大抑制が機能しているようにも思われる。こうした中、全館避難まで想定する必要はないのかなどの意見を耳にしたり、アジアの周辺諸国では超高層ビルに中間避難階を法令によって義務づけたり、中には中間避難階と地上を結ぶ避難用エレベーターの設置まで要求する国も存在している。また、建築物におけるバリアフリーの普及によって車いす利用者らの建物利用が促進される中で、非常時、特に火災時の避難手段の確保も課題であると認識される。

本シンポジウムでは、主に現在の高層建築物からの避難戦略や避難訓練の状況、並びに現在取り組まれている最新の研究内容について講演してもらうとともに、近い将来における高層建築物からの避難戦略のあり方について議論したい。

主 催 : 公益社団法人 日本火災学会 避難行動専門委員会

共 催 : 東京理科大学 火災科学研究所・創域理工学研究科 人間安全理工学コース

開催日時: 2024 年 3 月 21 日(木)13:30~16:30(最長 17:00 まで)

開催方法: 対面開催と並行してオンライン参加も可能

開催場所: 東京理科大学 森戸記念館(13 号館)地下 1 階 第 1 フォーラム

(神楽坂キャンパスマップ:

<https://www.tus.ac.jp/tuslife/campus/kagurazaka/>)

申込方法: 対面で参加を希望される方は、次のリンクからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/a3Sqqixvnf>

お申込み頂いていない方は会場にて必要事項を記入して頂きます。

オンラインで参加を希望される方は、次のアドレスから事前登録をお願いします。

登録後に、会議情報を含む確認メールが届きます。

<https://tus-ac->

[jp.zoom.us/meeting/register/tJEqce2sqTwqGtBpNu5ntIjf0uiEIzp2s1A](https://tus-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tJEqce2sqTwqGtBpNu5ntIjf0uiEIzp2s1A)

参加費: 無料

シンポジウム「全館避難の再考 ～超高層・高層建築物からの避難戦略～」
プログラム(13:30～16:30(最長 17:00))

第1部(2時間程度:15～20分/人)

【趣旨説明】

水野 雅之(避難行動専門委員会・主査、東京理科大学)
「高層・超高層建築物における避難戦略を考える」

【講演】

榎本 満帆(避難行動専門委員会・幹事、(株)明野設備研究所)
「グレンフェル・タワー火災による英国の避難戦略の転換
～全館避難ガイドラインの紹介を通じて～」

柏木 修一(セコム(株), 元東京消防庁)
「高層建築物の火災対策(予防、消防戦術)と火災事例」

山岸 克大／戸神 育真(東京防災設備保守協会)
「防災センターの評価と要員の教育」

三上 源太郎(森ビル(株) 設計部)
「超高層ビルにおける防災訓練の内容紹介 ～自衛消防訓練や避難訓練～」

相澤 洋一(三井不動産エンジニアリング(株))
「高層事務所ビルを対象としたエレベーター利用避難の検討」

(10分程度の休憩)

第2部(1時間程度)

【討論】

司会:
峯岸 良和(避難行動専門委員会・委員、(国研)建築研究所)

まとめ:
野竹 宏彰(避難行動専門委員会・委員、清水建設(株) 技術研究所)